

## 5-1 国際交流室

### 研究・教育活動の概要と特色

国際交流室は、学部・研究科の教育・研究のグローバル化促進を目的として平成 25 年度（2013 年度）に新設された運営組織である。これまで研究広報室国際交流担当および留学生担当教員が担っていた役割を引き継ぐとともに、国際交流ディヴィジョンと連携しつつ、国際交流に関わる業務全般の責任主体として活動することになった。構成員（室員）として、従来の留学生担当教員に加え国際交流室専任教員を配置し、副研究科長が室長を兼務する。

教育面における国際交流室の仕事としては、まず海外からの留学生への対応がある。国際交流サポート室に常駐する T A の協力を得て、留学生の学生生活全般に関する日常的な相談・支援を行っている。室員はそれぞれの専門分野に関連した授業を、学部および研究科の共通科目として開講しているが、その一部は英語による授業である。サポート室や共修の授業を通じて日本人学生と外国人学生の交流をはかることは、グローバル化教育という点で重要な意義を有する。また国際交流室は、来日時のアテンド・サービス、奨学金の推薦、研究室配置先の調整（学術交流協定に基づく留学の場合）などのルーティン的な業務を、教務係と協力して確実に遂行している。さらに全学のグローバル化事業との連繋、派遣留学のための情報提供と留学希望者への個別支援も、国際交流室の重要な仕事である。

研究面において、国際交流室は、全学および部局の学術交流協定の締結・更新に関わる業務を担っている。個々の交流の主体は研究科の各教員であるが、国際交流室員も、単独あるいは研究科内の他部門と共同で、それぞれの専門分野に関連する国際的な研究交流を積極的に推進している。

近年、教育・研究のグローバル化に対する要請は大きく、これへの対応として、留学生の受入れ・派遣プログラムの策定や、共同学位など新たな教育制度の導入に向けた検討も、国際交流室が主導して進めている。また国内外で開催される留学フェアへの参加、海外の交流拠点校への訪問、研究科ウェブ・サイトの多言語化など、留学生増に向けた戦略的なアクションにも力を入れている。

### I 組織

## 1 教員数（2013年9月末現在）

准教授：2

准教授：高橋章則、村上祐子

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2009～2013年度）

### 5 留学・留学生受け入れ

#### 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
09			
10			
11		1	1
12		1	1
13	1		1
計	1	2	3

#### 1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

国際交流室は平成25年度（2013年度）に新設された組織であるため、室としての評価は今年度のものに限られるが、「研究・教育活動の概要と特色」に記したような業務を着実にこなしていると評価できる。全学との連繋という点では、平成24年度から実施されている「東北大学グローバル人材育成推進事業」に積極的に参加し、新規授業の開設や今後のグローバル化に向けた調査活動などを行った。

室員の一人である高橋准教授は、これまでも留学生担当教員として留学生の修学生活の支援にあたるとともに、留学生向け「日本語日本文化論」の講義を提供してきた。また日本政府（文部科学省）奨学金留学生・日本語日本文化研修留学生・研究生に対する個別の教育指導を行うと同時に、専門である日本思想史分野では各種論文審査に携わるなど、教育面での研究科への貢献が大きい。ライデン大学（オランダ）、ローマ大学（イタリア）との学術交流を推進し国際シンポジウムを継続的に開催するなど、研究交流の面でも高い評価に値する業績をあげている。

室員の一人である村上准教授は、前任部署である本学理学研究科国際交流推

進室での経験をベースとして、平成 25 年度は、国際交流サポート室の立ち上げ、留学生受入れ業務の見直し整備、海外拠点交流校との協議等々、文学研究科の国際交流体制の改善・再構築に大きく寄与した。教育面でも英語による共修授業を開講し、学生から高く評価されている。また国内外の学会で数多くの発表を行うなど、活発な研究活動を続けている。

### Ⅲ 教員の研究活動（2009～2013 年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

高橋章則 狂歌が結ぶ「知」と地域一名古屋・仙台ー、書物・出版と社会変容第 6 号、1-37 頁、2009 年 3 月

高橋章則 江戸狂歌ー出版とスクラムを組む文芸ー、東アジア出版文化研究ほしづくよ、327-339 頁、2010 年 3 月

高橋章則 『狂歌仮名手本忠臣蔵』と広重、浮世絵芸術 160 号、pp5-25、2010 年 7 月

高橋章則 『伊南村史』通史編、第 4 章、第 9 節「文化」二、狂歌・俳諧歌、832-835 頁、2011 年 9 月

高橋章則 「故俳諧歌場真顔居士追福香花集」広告二種ー真顔没後の四方側ー、書物・出版と社会変容第 13 号、183-233 頁、2012 年 10 月

高橋章則 表現される遊女から表現する遊女へ、『男と女の文化史』、47-74 頁、2013 年 3 月

高橋章則 思想の流通ー月次な学芸世界、『岩波講座 日本の思想』第 2 巻、51-82 頁、2013 年 5 月

村上祐子 哲学教育の一環としての論理学教育の充実に向けて、『科学哲学』43 巻 1 号、91-97 頁、2010 年 7 月

村上祐子 応用哲学は学ぶものか？（書評論文：「応用哲学を学ぶ人のために」「これが応用哲学だ！」）、『科学哲学』46 巻 1 号、69-76 頁、2013 年 9 月

Yuko Murakami and Manabu Sumida, HPS/NOS in Japan. Michael Matthews et al. (eds.) *International Handbook of Research in History and Philosophy and Science Teaching*, Springer. February 2014.

## 1-2 著書・編著

高橋章則 『狂歌陸奥百歌撰(東北文化資料叢書第5集、近世文学資料)』  
(東北大学大学院文学研究科東北文化研究室)、pp1-90、2010年3月

土屋俊監修、大谷卓史編、江口聡・喜多千草・永崎研宣・村上祐子・坪井雅史・川口嘉奈子・吉永敦征・谷川卓『情報倫理入門』、アイ・ケイ・コーポレーション、2012年9月

伊勢田哲治・戸田山和久・調麻佐志・村上祐子編『科学技術をよく考える』  
名古屋大学出版会、2013年4月

## 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

高橋章則 外国の大学等との学術協定(『東北大学百年史三 通史三』)、  
597-616頁、2010年3月

村上祐子 Institutional Repository as Research Infrastructure for Social  
Responsibility, *Annual Report of National Institute for Fusion Science*,  
April 2008-March 2009. p.351. 2009年10月

村上祐子 科学史学会年会シンポジウム『大学変革期における科学史教育』  
報告書、『科学史研究』vol.49(256), 244-246頁、2010年12月

村上祐子・神崎宣次 学会誌と機関リポジトリの協同、『京都大学図書館  
機構報』第48巻2号、22-23頁、2011年2月

村上祐子 書評：トルケル・フランセーン著、田中一之訳『ゲーデルの定  
理——利用と誤用の不完全ガイド』(みすず書房)、『数学セミナー』  
2011年11月号、100頁、2011年11月

村上祐子 JST-RISTEX「不確実な科学的状況での法的意思決定」プロジェ  
クト編『法と科学のハンドブック(ver.20120816)』、36-37頁、68-70  
頁、2012年8月

村上祐子 書評：哲学者たちの反省(ジュリアン・バッジニー、ピーター  
・フォスル著、廣瀬・長滝訳『哲学の工具箱』(共立出版)、戸田山  
和久・美濃正・出口康夫編『これが応用哲学だ!』(大隅書店))、  
『情報管理』、55巻7号、532-534頁、2012年10月

- 村上祐子 書評：数学的理解に関して哲学・哲学者は何ができるのか？（砂田利一・長岡亮介・野家啓一『数学者の哲学＋哲学者の数学——歴史を通じ現代を生きる思索』（東京図書））、『数学セミナー』2012年11月号、94頁、2012年11月
- 村上祐子 哲学の未開地としての化学、『月刊化学』2013年2月号、11頁、2013年1月

#### 1-4 口頭発表

##### (1) 国際学会

- 高橋章則 「竹斎と文蔵の近代—射和と仙台、二つの文庫は何を目指したのか—」における講演、2009年10月4日
- 高橋章則 江戸狂歌—地域に拡大する出版、「東アジア出版文化研究討論会」における講演、2009年10月10日
- 高橋章則 江戸文化理解のキーワード『月次』、「日・蘭・伊三大学国際シンポジウム」における発表、2013年3月18日
- Yuko Murakami and Tetsuji Iseda, Intercultural issues toward integration of critical thinking and science communication. Asia-Pacific Computing and Philosophy (AP-CAP), University of Tokyo, Japan. 2009年10月
- Yuko Murakami and Miwa Kuri, Half academia: case studies on geological science (with Miwa Kuri, Society for Social Studies of Science (4S), University of Tokyo, Japan. 2010年8月
- Yuko Murakami, Logic education: now and future. Indiana University Logic Seminar, 2012年2月
- Yuko Murakami, HPS in Japan. Second Japan-Korea workshop of History and Philosophy of Science, Miyazaki, Japan. 2012年11月
- Yuko Murakami, HPS/NOS in higher education in Japan. International History, Philosophy and Science Teaching (IHPST) Conference. University of Pittsburgh. 2013年6月
- Yuko Murakami and Miwa Kuri, Science café for information gathering. Society for Social Studies of Science (4S) annual meeting which will be held in San Diego. 2013年10月

## (2) 国内学会

- 高橋章則 オランダにおける日本研究の現況と資料調査の報告、日本思想史研究会 6 月例会、東北大学、2009 年 6 月 27 日
- 高橋章則 四方側分裂、日本近世文学会平成 21 年度秋季大会、2009 年 11 月 7 日
- 高橋章則 『狂歌仮名手本忠臣蔵』と広重、「書物・出版と社会変容」研究会 12 月例会、一橋大学、2009 年 12 月 5 日
- 高橋章則 「四方側」の分裂—真顔没後に作成された三種の名録から導かれること—、「書物・出版と社会変容」研究会 10 月例会、一橋大学、2010 年 10 月 2 日
- 高橋章則 19 世紀直江津の文化—狂歌・浮世絵を用いた地域史の再構成—、「書物・出版と社会変容」研究会 6 月例会、一橋大学、2011 年 6 月 7 日
- 高橋章則 地域社会史の資料としての狂歌、尾張藩社会研究会 11 月研究会、名古屋芸術大学、2011 年 11 月 26 日
- 高橋章則 月次な学芸世界—飛脚問屋支配人富田永世の狂歌・和歌・和学—、「書物・出版と社会変容」研究会 9 月例会、一橋大学、2012 年 9 月 29 日
- 高橋章則 「天童広重」の背景にあるもの、日本文芸研究会第 65 回総会・研究発表大会、山形大学、2013 年 6 月 8 日
- 村上祐子 日本の論理学教育の現状、日本科学哲学会ワークショップ、高千穂大学、2009 年 11 月
- 村上祐子 義務論理の方法論、日本科学哲学会ワークショップ、高千穂大学、2009 年 11 月
- 村上祐子 行為論理の現況報告、応用哲学会冬の研究集会、京都大学、2010 年 2 月
- 村上祐子 e-サイエンスの方法論再考、応用哲学会大会、北海道大学、2010 年 4 月
- 村上祐子・久利美和 ハーフアカデミック：モード 2 サイエンスと研究者のキャリアパス、日本地球惑星科学連合、幕張メッセ、2010 年 5 月

久保田祐歌・菊地建至・村上祐子 哲学教育に関する情報共有システム構築、京都大学高等教育研究開発推進センター第17回大学教育研究フォーラム、京都大学、2011年3月

村上祐子 法と科学の界面における真理、科学基礎論学会大会、愛媛大学、2011年6月5日

村上祐子 石黒ひでとその周辺、応用哲学会大会、千葉大学、2012年4月  
久利美和・村上祐子・立花浩司 科学的不確実性を取りあつかう場合の情報収集型サイエンスカフェの試み、科学技術社会論学会第11回年次研究大会、湘南国際村センター、2012年11月

村上祐子 プライバシー：文脈統合と分散知識、応用哲学会第5回大会、南山大学、2013年4月

Yuko Murakami, What does “academic writing” mean in Japanese higher education? 応用哲学会第5回大会、南山大学、2013年4月

村上祐子・黒川英徳・矢田部俊介・岡本賢吾 構成的真意味の理論とパラドクスの解決、日本哲学会ワークショップ、お茶の水女子大学、2013年5月

村上祐子 プライバシー概念の論理的記述、電子情報通信学会技術と社会・倫理研究会（SITE）、情報セキュリティ大学、2013年5月

村上祐子 地球科学における研究管理：ケーススタディ、日本地球惑星科学連合2013年大会、幕張メッセ、2013年5月

村上祐子 即興演奏と作品の境界、日仏現代音楽協会・日仏即興演奏シンポジウム、代官山エナスタジオ、2013年9月

村上祐子 科学的知識の伝達と意思決定の論理（ワークショップ「異分野交流、科学技術コミュニケーション実践時の言語・概念のズレ」）、科学技術社会論学会大会、東京工業大学、2013年11月

村上祐子 サイエンス・コミュニケーションにおける論理性、日本科学哲学会大会、法政大学、2013年11月

## 2 教員の受賞歴（2009～2013年度）

村上祐子 東北大学男女共同参画委員会 平成22年度（第8回）沢柳賞プロジェクト部門「地域の子育て情報交換の場と父親の育児参加を促す企画としての科学普及活動」（阿部比佐久、久利美和と共同受賞）、

2010年12月

村上祐子 東北大学科学者の卵養成講座（科学技術振興機構「未来の科学者養成講座」委託事業）発表会「科学を見る眼」プレゼン会議 ポスター発表 エクステンドコースの部 第1位「これからの科学者の定義 ～原発事故から学ぶ～」、2012年3月

#### IV 競争的資金獲得（2009～2013年度）

##### （1）科学研究費補助金

###### 2009年度

高橋章則：基盤研究（C）「『天領』の思想・文化・学問に関する研究」（研究代表者）

村上祐子：基盤研究（B）「科学技術社会論と融合したクリティカルシンキングの研究および教育手法開発」（研究分担者、研究代表者：伊勢田哲治）

村上祐子：基盤研究（B）「討議倫理のモデル構築」（研究分担者、研究代表者：野家啓一）

###### 2010年度

高橋章則：基盤研究（C）「『天領』の思想・文化・学問に関する研究」（研究代表者）

村上祐子：基盤研究（B）「科学技術社会論と融合したクリティカルシンキングの研究および教育手法開発」（研究分担者、研究代表者：伊勢田哲治）

村上祐子：基盤研究（B）「討議倫理のモデル構築」（研究分担者、研究代表者：野家啓一）

###### 2011年度

高橋章則：基盤研究（C）「『天領』の思想・文化・学問に関する研究」（研究代表者）

村上祐子：基盤研究（C）「哲学のための中上級論理学推進」（研究代表者）

村上祐子：基盤研究（B）「科学技術社会論と融合したクリティカルシンキングの研究および教育手法開発」（研究分担者、研究代表者：伊勢田哲治）



田哲治)

村上祐子：基盤研究（B）「討議倫理のモデル構築」（研究分担者、研究代表者：野家啓一）

村上祐子：基盤研究（C）「歴史的・論理学的手法を用いるプライバシーの多義性と文脈依存性に関する研究」（研究協力者、研究代表者：大谷卓史）

## 2012年度

高橋章則：基盤研究（C）「『狂歌』を端緒とした近世後期の地域文化形成に関する研究」（研究代表者）

高橋章則：基盤研究（A）「『書物・出版』と社会変容」（研究分担者）

村上祐子：基盤研究（C）「哲学のための中上級論理学推進」（研究代表者）

村上祐子：基盤研究（B）「科学技術社会論と融合したクリティカルシンキングの研究および教育手法開発」（研究分担者、研究代表者：伊勢田哲治）

村上祐子：基盤研究（B）「討議倫理のモデル構築」（研究分担者、研究代表者：野家啓一）

村上祐子：挑戦的萌芽研究「研究関連組織の科学普及活動実践者のキャリアパス：実態と可能性」（研究分担者、研究代表者：久利美和）

村上祐子：基盤研究（C）「歴史的・論理学的手法を用いるプライバシーの多義性と文脈依存性に関する研究」（研究協力者、研究代表者：大谷卓史）

村上祐子：基盤研究（B）「計算の哲学—様々な展開に向けて—」（研究協力者、研究代表者：三好博之）

## 2013年度

高橋章則：基盤研究（C）「『狂歌』を端緒とした近世後期の地域文化形成に関する研究」（研究代表者）

高橋章則：基盤研究（A）「『書物・出版』と社会変容」（研究分担者）

村上祐子：基盤研究（C）「哲学のための中上級論理学推進」（研究代表者）

村上祐子：基盤研究(A)「大学教育改善の促進と教育イノベーション普及のための『大学教育コモンズ』の構築」（研究分担者、研究代表者：

飯吉透)

村上祐子：挑戦的萌芽研究「研究関連組織の科学普及活動実践者のキャリアパス：実態と可能性」（研究分担者、研究代表者：久利美和）

村上祐子：基盤研究（B）「計算の哲学—様々な展開に向けて—」（研究協力者、研究代表者：三好博之）

村上祐子：基盤研究（C）「歴史的・論理学的手法を用いるプライバシーの多義性と文脈依存性に関する研究」（研究協力者、研究代表者：大谷卓史）

## （2）その他

### 2009 年度

高橋章則：研究科長裁量経費「有備館講座 第八期」

高橋章則：研究科長裁量経費「斎理蔵の講座 第二期」

### 2010 年度

高橋章則：研究科長裁量経費「有備館講座 第九期」

高橋章則：研究科長裁量経費「斎理蔵の講座 第三期」

村上祐子：科学技術振興機構社会技術研究開発センター「不確実な科学的状況での法的意思決定」プロジェクト

### 2011 年度

高橋章則：研究科長裁量経費「有備館講座 第十期」

高橋章則：研究科長裁量経費「斎理蔵の講座 第四期」

村上祐子：科学技術振興機構社会技術研究開発センター「不確実な科学的状況での法的意思決定」プロジェクト

### 2012 年度

高橋章則：研究科長裁量経費「日・蘭・伊3大学国際学術シンポジウム ローマ大会共同開催事業」

村上祐子：科学技術振興機構社会技術研究開発センター「不確実な科学的状況での法的意思決定」プロジェクト

### 2013 年度

高橋章則：研究科長裁量経費「日・蘭・伊3大学国際学術シンポジウム ライデン大会共同開催事業」

## V 教員による社会貢献（2009～2013年度）

高橋章則

- ・有備館講座第八期（公開講座企画）、2009年5月～2009年9月
- ・齋理蔵の講座第二期（公開講座企画）、2009年6月～2009年10月
- ・有備館講座第九期（公開講座企画）、2010年5月～2010年9月
- ・齋理蔵の講座第三期（公開講座企画）、2010年6月～2010年10月
- ・公開講座講演「表現される遊女から表現する遊女へー19世紀江戸吉原の世界ー」、有備館講座第十期、2011年5月14日
- ・有備館講座第十期（公開講座企画）、2011年5月～2011年9月
- ・齋理蔵の講座第四期（公開講座企画）、2011年6月～2011年10月
- ・有備館講座第十一期（公開講座企画）、2012年5月～2012年9月
- ・齋理蔵の講座第五期（公開講座企画）、2012年6月～2012年10月
- ・公開講座講演「狂歌でたどる『伊達』な風物」、文学研究科・紅葉の賀、2012年11月3日
- ・公開講演会「直江津今町の町衆文化」、まちおこし直江津、2012年11月17日
- ・有備館講座第十二期（公開講座企画）、2013年5月～2013年9月
- ・齋理蔵の講座第六期（公開講座企画）、2013年6月～2013年10月
- ・公開講演会「江戸時代末の塩竈の文化」、なみこし縁日（塩竈市雲上寺）、2013年5月19日
- ・公開講演会「『天童広重』の背景にあるもの」、日本文芸研究会（山形大学）、2013年6月8日
- ・公開講演会「直江津ルネサンスー千代垣碑が問いかけるものー」、まちおこし直江津、2013年7月12日
- ・公開講座講演「田尻の中の江戸ー全国に知られた狂歌作者たちー」、有備館講座第十二期、2013年7月17日
- ・公開講座講演「江戸文化理解のキーワード『月次』」、文学部オープンキャンパス、2013年7月31日

村上祐子

- ・法と科学の哲学カフェ「合理性の衝突」、東京・サロンド富山房 FOLIO、2010年12月

- ・名古屋大学 SP カフェ 「「科学が行われている現場の実情」ー学術研究政策が個人の活動に及ぼす影響」、名古屋大学、2011年1月
- ・小澤正直教授講演会 『科学哲学と物理学の交流ー量子力学のフロンティアと東工大の文理融合知ー』 パネルディスカッション、東京工業大学エージェントベース社会システム科学研究センター、2012年4月
- ・法と科学の哲学カフェ 「震災後の科学コミュニケーションに見る「事実」と「価値」」、千葉・トレジャーリバーカフェ、2012年5月
- ・出前授業 「科学と法の不確実性とコンカレント・エビデンス」、山形県立米沢興譲館高等学校、2012年7月
- ・科学哲学実験室 in 青学（一般社会人対象）、青山学院大学、2013年7月
- ・出前授業 「科学的とは何か？：推論の特質」、宮城県立古川黎明中等教育学校、2013年10月
- ・法と科学の哲学カフェ 「ロボットをめぐる法と倫理」、さんさき坂カフェ、2013年11月
- ・公開講座 「間奏:現代論理から広がる豊かな世界」、首都大学東京オープンユニバーシティ「身につけよう！現代論理学のエッセンス」、2013年11月
- ・出前授業 「科学と法の不確実性とコンカレント・エビデンス」、山形県立米沢興譲館高等学校、2013年12月
- ・出前授業 「かっこいいそをつこう！」（小学生対象）、千代田区立富士見わんぱくひろば学童クラブ、2014年2月（予定）

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2009～2013年度）

高橋章則

- ・日本文芸研究会常任委員
- ・国立大学法人総合研究大学院大学大学院教育改革支援プログラム評価部会委員

村上祐子

- ・科学基礎論学会 理事・広報委員長（2009～2013年度）
- ・日本科学哲学会 評議員・大会実行委員（2009～2013年度）

- ・応用哲学会 理事（2008～2013年度）
- ・日本哲学会 評議員（2013年度）

## **Ⅶ 教員の教育活動**

### **（1）学内授業担当（2013年度）**

#### **1 大学院授業担当**

高橋章則

日本文化研究演習

日本文化研究演習

日本語論文作成法

#### **2 学部授業担当**

高橋章則

日本語・日本文化論講読

日本語・日本文化論講読

日本語表現論

村上祐子

人文社会科学総合

#### **3 共通科目・全学科目授業担当**

高橋章則

日本語D

#### **4 その他**

村上祐子

Introduction to Humanities and Social Sciences

（IPLA 開講科目）

### **（2）他大学への出講（2009～2013年度）**

高橋章則

東北学院大学 日本文化論（2009～2013年度）

東北薬科大学 文章の表現 I・II (2009～2013 年度)

村上祐子

立教大学理学部 サイエンスコミュニケーション (2011～2013 年度)

京都大学 論理学上級 II (2013 年度)